

THE
FX 15 SECONDS
REVOLUTION

SIGトレーダー

藤岡 空

今後数十年間と勝ち続け
最後に勝ち逃げすることが
FXの真の目的です

最強の資産

貯めること

保有すること

浪費すること

「お金」はその3つを可能にします。

しかし、「時間」の流れはその3つを実現させることはできず、地球上すべてに平等に流れています。

「お金」よりも「時間」

Time is money ではなく、
Time is more money です。

取り返しのつかない「時間」に重きを置くか、
取り返すチャンスが何度も巡ってくる「お金」に重きを置くか、

この最初の選択で、人生の大半が決まっているかも知れません。

軽く見られるデイトレーダー

デイトレーダーが軽く見られやすいのは、一夜にして大金持ちになった話と大損失を被った話ばかりが報道され、堅実的な労働感とは程遠いイメージが出来上がっていることが一因です。

この認識が、ある人にとっては手を出してはいけないものに映り、別の人には夢のような話しに映ります。

その両方とも正しい認識ではありません。

どちらにも「地道」という要素を欠いています。

その誤まった認識が、さらに誤まった行動を呼び込み、地道なトレーダーは嫉妬され認められず、人知れず孤独に稼ぎつづけることになります。

そのため、一時的に儲かっている者はメディアに取り上げられても、地道な者は水面下で自分の仕事をただ黙々とつづけます。

目立つ者と
目立たない者

世間の目からどう映ろうとも地道な者は、毎日同じことを繰り返すだけです。それが、この世界で勝者でい続けられる条件のひとつになります。

一番大事なことは？

何年間も稼ぎつづけられるようになるためには、
なにが一番重要になるでしょうか。

『 トレード派、マインドが一番大事です！ 』

これは、大事な教訓の一側面を言っているに過ぎません。

- ・ テクニカル技術の習得
- ・ エッジのある手法
- ・ 待つことのできる忍耐力
- ・ 練習量
- ・ 人間心理の本質を理解する
- ・ 学ぶ意欲とその姿勢
- ・ 有能なコーチであり、実際に今も勝っているコーチの存在
- ・ 日誌を付け、見直す習慣
- ・ 資金・リスク管理
- ・ 悩み事や体調などの日々の自己管理
- ・ 食事、睡眠などの正しい生活習慣

これらはどれも大事なことです。

つまり、
大事なことは、たったひとつではありません。

これらすべてを習得して、完璧に身に付けること。

それが一番大事です。

大事な教訓をひとつに絞らないほうが良いのです。

熱心に学ぶ

ほとんどのトレーダーが途中で撤退してしまう理由は、学ぶことを辞めてしまうから。

トレーダーは
雨も風も防いでくれる暖かい自宅で
商品を安く買って、高く売っているのではなく、
その市場は世界規模であり、ライバルは無数の兵たちであり、
彼らより賢くトレードしなくては、
収益に結びつけることができない。

それどころか大損失を被ってしまう。
そんな場所に店を出して、商売をしています。

他人より賢くなる

山道で熊に遭遇した場合、
熊より早く走って逃げる必要はありません。

一緒に来た人よりも早く逃げるのができればいいのです。

限界まで学び練習を繰り返し、実戦経験を積むこと。

まるでアスリート選手のようなですね。

興奮は、逃げる合図

人は危険を察知するとアドレナリンが分泌され、興奮します。

心臓の鼓動が早まり、

怪我をした場合でも出血が最小限に抑えられるように毛細血管が細くなります。

逃げるか、戦うか、そういうカラダに成るように人間の本能にプログラムされています。

しかし、このときすべての血液が、カラダに集中します。

頭の血液さえもカラダに持っていかれ、そのためボーっとして普段の知能よりもはるかに低い状態を引き起こす。

興奮は、身体を使う場合は素晴らしい力を発揮してくれますが、

頭を使うものには逆効果になるわけです。

トレードにおいて、焦りや怒りがダメである理由がここにあります。

もしもトレード中に湧き上がる感情を察知したならば、

それは急いで逃げるシグナル、

知能が完全に使い物にならなくなる前に、深呼吸を数回行い、

画面から目を離し、冷静さを取り戻しましょう。

勝者のキーワード

トレーディングは、対人間です。
対マシンではありません。

目の前のモニターの背後には、プロたちが競い合っています。

カモとは、常に準備を怠った者たちであり、
相場を甘くみた者たちであり、
楽をして稼げると思って志願した者たちである。

勝者の行動は、カモたちが嫌がる場所で売買を行う。

高すぎて、買えないような所で買い
安すぎて売れないような所で売る。

安いから買ったところでドンと売り、
高いから売ったところでドンと買う。

ナンピン買いを繰り返されるようなところではどんどん下げ相場になり、
ナンピン売りを繰り返されるようなところではどんどん上げの踏み上げ相場になる。

カモが、耐えられずに切ったところがピタッと止まり、
カモが、耐えられずに入ったところがドンピシャ！に反転し、

力尽きたところに美味しい相場が出現する・・・

カモの損切りがトレンドを作る。そのおかげで勝者が勝者でありつづけられる。

私たちはカモの行動を想像できます。

なぜなら、私たちが「カモ」そのものだからです。

自分自身の行動を観察し、先の行動を考え、自分自身の行動のウラをかくことは
勝者が売買を行うところなのです。

アグレッシブに行くか、保守的にいくか

アグレッシブ派でも

保守派でも、

実はどちらのタイプにも強いトレーダーというのが存在します。

わずかなエッジでもリスクを取りに行くアグレッシブ派。

わずかなエッジではチャンスと見なさず「待ち時間」を長くとる保守派。

どちらでも「その人の性格」に合わせたトレードを選ぶべきですが、

本当に自信がつくまでは、保守的に臨むべきです。

相場は何事も起こりえるし、想定外のハプニングが常に起こるように待ち構えています。

目先の勝ち負けに一喜一憂しているうちは、

相場時間の90%を

観察に費やしましょう。

F X収益はどこから？

F Xの収益は、勝ちトレードから得られるものではありません。

勝ちトレードと負けトレードの差で得られるものです。

これを勘違いしていると

トレードで「負けたくない」
「負けられない」と思うようになり、
悔しいトレードを重ねてしまいます。

逆に勝つとすぐに浮き足立ち、過信につながり、
次のトレードではあまり考えずに無計画なトレードを行ったり、
大きな枚数で大負けしたりします。

勝ちトレードと負けトレードの差をプラスに持っていくのが、
トレードという名のビジネスなのです。

チャンスなのにトイレに行こうとしませんか。

トレードチャンスの際に
急にトイレに行きたくなることはありませんか。

もしくは、
掃除をしたくなる、とか
他の本に手を伸ばしたくなる、とか
携帯をいじり始めたり、別のサイトを閲覧し始めたり、

とにかく画面から離れたくなる・・・

実はこれは偶然の出来事ではなく、「サボリ」の本能からくる現象だと
知っていましたか。
心理学用語でサボタージュと呼ばれるものですが、
この現象は誰にでも起こります。

これに対抗するためには、
集中しつづけること、
「待つ」ことに慣れること、
そして、

「集中と待つ」ことを苦痛と思わない程度に適度に息抜きを入れていくことです。

あまりがんばりすぎずに、リラックスして楽しむ気持ちで、
トレードチャンスを探していきましょう。

勝者の本質

勝ち組 負け組

なにを持って勝ち組か、負け組だと決められるのか。

1年後は勝者でも5年後は敗者かも知れない。

生涯さいごを迎えるときに不幸であったならば、
人生の勝者だったと思えるだろうか。

目先の利益よりも、生き延びること。
この発想が、勝者の本質。

リスクはどこにでも存在し、決してゼロにならないという考え方が必要です。

ゼロにならないリスクをゼロにしようとすることに
最初から無理があります。

リスクというものは、無くせるものではありません。
リスクを自分のために上手に活用していこう、
利用していこうという姿勢になって、
はじめて生きてくるものだからです。

意志の力をつける

マーケットは土日以外、24時間動いています。
だれも24時間トレードしつづけられませんし、
長くやればトータル収益が多くなるとも限りません。
やるときはやるが、休むときは休む。

しかし、できれば休んでいるときも
トレード力が上がるようなことをしたいものです。

それには、積極的に遊ぶことが大事だと思っています。

遊ぶと決めて、しっかり遊ぶこと。

レジャーを企画して、しっかり楽しむこと。

事前に思い描いたことを実際に行動に移せる練習は、
意志の力を鍛えることになります。

それは、相場においても

「待つ」と思考したところで待てるようになり、

「入る」と思ったところで入れるようになり、

「逃げなければ」と思ったときに瞬時に逃げられるようになります。

トレーダーが去る原因

多くのトレーダーが負けて去る原因は为什么呢。

その理由のひとつに、

楽しむ、ということが欠けているのがあります。

長く取り組む

勉強を続ける

トレードすることがたのしい

もっとやりたい

そう思いにくくなっている理由は、

氾濫する情報が、なにをどのように選択して良いかわからず、
途方にくれてしまうことにあります。

正しい情報が何か？も大事ですが、
それ以上に「好きになる」
この自由なマーケットと言うフィールドを楽しむことを優先させる。

そうすることできっと
トレードの学習も実践も苦ではなくなってくると思います。

執着心を持つとう

手法をコロコロ変える人がいます。

そういう人は、

失敗や挫折を感じるその先に

貴重な学びのエッセンスが詰まっていることを経験したことがありません。

きっと永遠と同じこと＝「聖杯探し」をしつづけるでしょう。

パフォーマンスが上がらない期間に遭遇したとき、

そこから逃げずに、その原因を考える。

改善を行い検証をつづける。

地道に。

仮説をたて検証を繰り返す。

そして改善できれば、

「パフォーマンスが上がらない期間」が減っていきます。

失敗原因を探る、

そこに正しい執着心を持つことで、

100人中90人が見過ごしてしまう

稼ぎつづけられるエッセンスを

しかも

自分だけのそれを持つことができるようになります。

自分に合ったものを

独自のスタイルでしか
自分の小さな芽を
大きく成長させることはできません。

これは私の経験則からです。

守、破、離 という言葉があるように、
さいしょは真似ることから学び、
その後は独自に進化させていく
伝統的な学びのスタイルがあるように、
トレードにおいても同じことが言えます。

東京、ロンドン、NY市場どの時間帯でやるか、
デイトレーダーかスイングカーか、もしくはスキャルパーか、
順張りか逆張りか 基本戦略はなにでいくか、
メインの取引ペアはなにか、 などなど

選択肢は山のようにありますが、
どれも自分の好みに盛って味付けできます。

さいしょから自分のベストマッチなどありません。
なにがどんな味なのかわからないからです。

それは経験を積みながら、楽しみながら
自分に合う方法を選択していくことで、
より良い選択をしていけます。

生き残るという感覚を持つ

リスクとリターンの関係は普遍です。
リターンとリスクは、常に同じ分量です。

トレードのことだけではありません。
万物に共通して言えることです。

もしも同じ分量だと考えられなければ、
「期待はずれ」や「裏切られたという感覚」を産み出す
危険性が出てきます。

例えば、すべてのクスリには副作用があります。
(大手医薬品会社の話では、毒性の無い薬は薬とは言わないそうです)

いい話には、その分悪い話が潜んでいます。

効果が強いほど、副作用が強い、つまり劇薬なのです。

本当にタダで手に入るモノなど
この世には、塵ほどもありません。

トレードにおいては、
常に「破産への道」が用意されています。
しかし、同時に
「無限の富」への道も用意されています。
どちらも無限大。

その中で、

ただ生き残る。

資金を守る。

ただそれだけで、
この世界では、
十分に大きな価値があり、

その感覚を持つことは想像以上に大切なことであり、
「生き残る」こと自体が、
この相場の世界ではすべての価値を持ちます。

本当に嫌な作業

この世界は、一生涯学びつづけていくものだと言われています。
なぜなら、相場は人の心を表しているからです。

群集の心を表しており、
自分の心を表しており、
その二つがチャートに投影されています。

そのため、自分自身を省みることをせずに
相場から利益を得ることなど
到底不可能なのです。

『 自分を省みる 』

これほど難しいことが他にあるでしょうか。

今の環境に身をおいているのは、
すべて今までの自分の選択の連続です。

すべての出来事、
すべての目に見える現象を引き起こしているのは、
他ならぬ自分自身です。

すべての源は自分

それを腹に落とすことがなければ、
自分を省みることができません。

本当に嫌な作業です。

トレード手法はなんでもいい

相場は、猛獣がわんさかいるサファリでサバイバルゲームをするようなものです。

猛獣と遭遇したときにすべきことは、ただ一つ。

逃げること

猛獣より早く逃げるのではなく、
一緒に来た仲間より早く逃げるだけでよい。

つまり、一般トレーダーよりも賢くなること。
そのためには学びつづけ、経験し、改善を繰り返す。
そして、さらに学び、経験し、改善を繰り返す。

学ぶ姿勢、学びの質

それに比べれば、トレード手法はなんでもよくなります。

どんな陳腐な手法でも
継続、改善、学習を繰り返すことで、
自分だけの手法を身につけ、
最も自分にあったトレードができるようになります。

価格を動かすたった一つのこと

ランダムウォークで混沌とした相場の世界に見えても

値が上がると思っている買い派と
値が下がると思っている売り派という

ふたつの勢力しか存在しません。

経済ニュースがもともと動いているのか、
テクニカルがもともと動いているのか、
長期目線や短期目線、
日本人投資家をだまそうとしている海外プレイヤーの仕掛けか、

などと言った複雑な事情は一切関係ありません。

プライスを動かす原因は、たった一つだけ

それはその瞬間に実際に行われた買った、売ったのみ
プライスに影響を与え、
売りよりも買いが勝れば値は上がり、
買いよりも売りが勝れば値が下がるだけの
シンプルな現象が起きるだけです。

複雑に見えても
勝てなくて途方にくれるようなことがあっても
たったその瞬間の売り買いの需給が
価格に影響を与えているだけなのです

それだけが価格を動かしつつづけます。

なぜFXで破綻する者が多いのか その理由は1つのみ

投資本は軽く100を越え、
本屋に行けば
初心者本から専門書までと
幅広くズラリと陳列されています。

過去のパターンは記録され、
勝つノウハウは示されているにも関わらず、
どうしてこうも破綻する者が後を絶たないのでしょうか。
少し考えると不思議に思えてきます。

その問題の根本にあるただ一つの原因は、

トレードを自分の仕事 = ビジネスと見なさず、

ゲームのように軽い気持ちで参入してくるところが起因しているようです。

「カンタンに儲けられる」

こういうイメージが根強く残り、
シンプルな攻略法に心を奪われ、

自分が甘かったと思い知るときは、
決まって大損失のあとです。

流行、周りの雰囲気には舞い上がらずにいきましょう。

メンタルよりも重要なこと

メンタル8割と言われる世界ですが、ほとんどの人が、メンタルが一番重要だと答えるでしょう。

もしくは、資金管理やリスク管理が一番でしょうか。

あるいは自己管理能力が一番大事でしょうか。

どれも最重要です。

しかし、それらよりもっと重要なことがあります。

言うなれば、最重要なことの前に来る、大前提となる

最重要よりも重要なポイント

それが、ドリームストーリーとリアルをはっきりと区別することができる能力です。

自分の間違いを修正する。

正す事ができないものは、ドリームストーリーにしがみついている可能性が高い

苦難は仕事の一部

連敗や大きな損切り経験など
したくありません。

しかし、

この世界において

利益と損失は表裏一体です。

損失を嫌うことは利益を嫌うことを意味し、

利益を好むことは損失を好むことを意味します。

現在FXを生業とするものでさえ、
例外なく絶望を経験しています。

絶望、落胆、
挫折、苦難は

この世界では必要なもの。
当たり前にあるもの。
誰もが経験することです。

間違いなく嫌なことですが、

苦難は私たちにとって必要悪であり、仕事の一部です。

トレードはそんなものじゃない

出会いを必要としないビジネス FXトレード

だから、人間としての成長は皆無だろうか。

それはこの世界の側面を言い当てています。

しかし、それは一側面に過ぎません。

むしろ出会うだけでは気づきにくい

人間の深い心理や欲望について

向き合わなくてはなりません。

出会いと自分の内面との向き合い その両方があって

より深く成長できるものだと考えます。

根暗、不健康、気難しい人というイメージは、一般的なものにあるかもしれません。

けれども

世界中の大人が夢中になれる知的ゲームであり、

ロマンであり、

自分を表現できるアートであるのは、この世界のもうひとつの側面でもあるのです。

欲望、マネー、だまし合い、パソコンとにらめっこ・・・

そういうイメージがあるのはわかりますが、

実際は本当にそんなものじゃないんです、トレードは。

トレードを通して人間的に成長する

人は人からしか学び得ない

よく聞く言葉です。

しかしそれだけが真実だろうか。

トレードは、
周りの要求や義務や競争欲に駆られることなく
自分のペースでできるビジネスです。

トレードは、
足るを知る
今の自分に満足して心を開くこと。

トレードは、
自分と向き合いつづけること。

常に強いトレーダーは、
期待しない
求めない

外側に答えを見出そうとする人が多い世の中で、
トレーダーは自分の内側に向き合いつづけ、
大きな可能性を引き出そうとしている者たちです。

人は人からも学びますが、
長く一人になって
自分を見つめつづけることでしか気づけない「学び」があると思います。

そう思うと、トレードこそが成長の本筋に思えてきます。

どうしても金融商品とカテゴライズされると
忌み嫌われやすいイメージがあります。

しかし、それについても
忌み嫌われやすい「お金」について

真っ向から向き合っています。

損切りができない？それはマズイ

損切りができない手法を構築しても
それは転び方を知らない子供と同じです。

つまづいただけで、骨折したり、
顔から地面に落ちたりします。

このような状態では、
ほかの運動などさせられません。
それに今後一生、
一度も転ばないことなどあるわけがありません。

マーケットにおいて、
損切りをしない
できないということは、

転び方を知らない子供と同じです。

損切りはすべての手法に通じる共通項です。
損切りが自らのFXの可能性を拡げます。

相場は上下するから儲けられる

買えば下がり、
売れば上がる、
思惑と違う方向に進むのは辛い

自分は監視されているのではないかと思うのも理解できます。

しかし、相場は一方向に動かないから
チャンスを逃しても次のチャンスで入ることができます。
いくらでもチャンスを提供してくれます。
波動で動いているから、
あらゆるトレーダーのニーズに応えてくれるのです。

ただし、「すべての値動きをモノにしよう」などというのは
さすがに欲深すぎるというもの

上下に動いてくれるマーケットは有り難いものだと思います、
その甘くない世界を乗り越えて少数の勝者に成りましょう。

焦らなくていい

トレードで稼ぐと思いついたときから
ある呪縛に囚われてしまいます。

焦り

抜け出そうとするほど

焦りがつのに、
ミスを連発して、
また焦る

しかしまったく焦る必要はありません。

なぜなら

稼ぎつづけられるトレーダーは、

それができるのは偶然ではないからです。

一攫千金を得た話はまったくの無価値
そのようなニュースでは価値ある情報を一切伝えません。

稼ぐことができるようになれば、ちゃんと稼げるようになります。

今稼げないのには、ちゃんと稼げない理由があるからです。

焦ってもその差は埋まりません。

秘策はありません。高いIQもありません。

メダルを目指すアスリートのように
ただただ、ひたすらと黙々と
学び、改善し、修練を積む

レベルが上がってもさらに
学び、改善し、修練を積む

それを繰り返しているだけなのです。

トレードで一番むずかしい事

それは勝つことではなく、

「待つこと」である。

一度も負けたことがないトレーダーはいません。

しかし、

勝てないトレーダーもまたいないのです。

一ヶ月間だけでも
勝ちトレードだけを集計すると
大きなプラスになります。

勝てるところで勝負をする

野球で言うボール球は

見送るべきです。

ストライク球を待ち続け、そのときだけバットを振ればいい

しかし、ストライク球かボール球か

それを見極めることが難しい

しかし、ほとんどの場合、

ストライク球が飛んでくるのを待つことができずに

勝率の低いボール球でバットを振り、

ストライク球が飛んでくるころは、

バッター三振アウトで、

すでに打席には立っていない。

きっと心当たりがあるはずです。

「勝つこと」より「いかに待つか」

その部分を強化していきましょう。

一番難しい課題から取り組み、

時間をかけ

しっかり克服していくのです

想定外の含み損は、すでに死んでいる

含み損は、未決済の負けポジションのことですが

この含み損はまだ負けていないと思いませんか。

負けポジションが勝ちポジションに変わるのを待ちたい

その気持ちはわかります。

しかし、その時点ですでに負けているのです。

負けポジションである含み損は、すでに死んでいるものなのです。

負けが勝ちに変わるのを期待するのは、
心理面ですでに負けを確定している証拠です。

ただ受け入れられない事態が生じた。
受け入れることができないから、
問題解決を後回しにしているだけなのです。

問題を後回しにするほど、
その根は腐り、
見たくないものになります。
どうでもいいポジションになるまで、
そう時間はかからないでしょう。

想定外の含み損は、すでに死んでいます。

大衆を出し抜くための基礎固め

トレーダー志願者が最初にやる事は、
取引方法を学び、それに慣れたあとに
知識の詰め込み期間を経る。

そこでテクニカル分析からファンダメンタルズ分析などの基本を勉強することになるが、
ある地点までレベルが上がると
どうしても乗り越えられない
トータル勝ち越せない壁が立ちはだかる。

それは、FXの教科書どおり忠実にトレードをしようとするからだ。

FXは他人を出し抜くゲーム。
他人を出し抜くために、
大衆が何を考えているかを学ぶために基礎を固めておく

次のステップに移るには、いかに基礎の逆を実践するかにかかっている。

売りと買いの需給が値を動かすシンプルな世界

さまざまな要因で値が動きます。

ヘッジファンド、国内勢、海外勢、実需、両替などさまざま。

また儲けとは関係ない売買の必要性があるものが5%あると言われています。

しかし、どんなことが、どのような理由で、

マーケットの値を動かすとしても

最終的には、買いと売りの二つしかありません。

買いが勝れば上がり、売りが勝れば下がるだけ。

小動きでその両者が拮抗していても

拡大してみれば売り買いの影響を受けて、動いています。

トレンドというのは、その拮抗が崩れて片方に偏った状態です

難しそうに思える世界も値動きの本質は、実にシンプル。

買い

売り

たったそのふたつで動いているだけなのです。

チャートを観察し、チャートからヒントを探す

買いと売りの動向はチャートにすべて現れます。

上がっているのは、買い派が勝利

下がっているのは、売り派が勝っているだけです。

買い派は、売り派が我慢できなくなって手放すところまで値を押し上げようとします。

売り派は、買い派が我慢できなくなって手放すところまで値を下げようとします。

その理由は、勢いをつけるために、逆のポジションを切らせたいからです。そのため、お互いがお互いを必要とする奇妙な関係があるともいえます。

それらの思惑は、すべてチャートに現れます。

チャートを観察することで、
今なにが起こっているのかが見えてきます。

健康管理の大切さ、重要度に気づくこと

トレーダーにとって
もっとも重要で、
けれども
手を抜きやすいことに
健康管理が挙げられます。

偏食、栄養不足、
体力の低下、
疲れが取りにくい、疲れやすい、
不眠症やいつまでも解決しない悩み事・・・

頭でわかっているけども進展がない。
それが雑念となり、トレードにも影響を与えてしまう。

365日、常に健康であることは至難の業です。

しかし、長期に渡りトレードを続けるには、
それは避けては通れないとても大切なことであり、重要度NO1が「健康管理」なのです。

常に心身ともに健康体をキープすること。

毎朝、清々しいカラダで目覚めること。

それらが土台にあって、充実した仕事も経済的自由も良好な人間関係も築けるのであって、
その逆ではありません。

本末転倒になっていないか。

社会に埋没されていないか。

健康第一

これが何よりも

すべての土台です。しっかりとした健康を維持し、その上で

夢や目標があるのだと考え方をスイッチしましょう。

ブレイクを獲るなら、天底を掴むのを怖れてはならない

保ち合いから

片方に一気にブレイクアウトする瞬間を狙う。

高値からさらに買うのは勇気がいる

安値からさらに売るのは勇気がいる

だから、押し目や戻りを待って、仕掛けようとする。

しかし、押し目も戻りも作らずにどんどん値が進むことも多いし、

高値づかみや安値づかみをして、損切りにあうこともある。

それらどの立場も嫌だとするならば、どこで獲るのか。

相場は、個人の理想どおりには動かない。

むしろ 個人の理想の裏をかくのが相場である。

そんなうまく行くわけがないのである。

高値で買い ダマシを掴んだのなら、切ればいい。

含み損が生じたのなら、ストップをおいて待てばいい。

ブレイクトレーダーにとって「含み損 上等」

斜めに入るプルバックを確認してからが、さらに値が進む可能性が高い。

逆に含み損の一見美味しいポジションは怪しい

それくらいの気持ちで、天底で買いと売りを行っていく気概が

ブレイクトレーダーにはほしいものです。

真のエッジ・優位性

トレーダーが気づくべき

相場における真のエッジ・優位性はどこにあるのでしょうか。

相場の値動きが変わっても

100年経っても変わらないもの

それは人間の心理であり、そこにエッジを見出すことができます。

私たちは

マーケットの中で、チャートを通じ人間観察をしています。

人間を観察して、心理戦で優位に立つことこそが、

真のエッジになりうるというのが、私の結論です。

相場がどれほどランダムに動いているように見えても、

人間心理は未来永劫変わらない。

過去データは未来を映しませんが、

人間心理は、きっと未来も今までと変わらず同じでしょう。

欲深き者が人間の本质で、数が集まれば

その本質に収縮していくからです。

この業界で戦えないときが来るとしたならば、

それは、

人間に欲がなくなるときかもしれません。